

2020年度 第3四半期決算概要

2021年2月5日
デンカ株式会社

1. 業績

(単位:億円)

	2020年度 第3四半期実績 (4-12月)	2019年度 第3四半期実績 (4-12月)	増 減	2020年度 通期予想 (4-3月)	2019年度 通期実績 (4-3月)
売上高	2,620	2,887	△ 267	3,500	3,808
営業利益	280	240	40	330	316
経常利益	273	227	46	300	300
親会社株主に帰属する当期純利益	189	167	22	220	227

2. 総括(前年同期比)

- ・ 当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、3つの成長ビジョン「スペシャリティの融合体」「持続的成長」「健全な成長」を掲げ、2018年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」における2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力しております。
- ・ 当第3四半期累計期間は、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格を改訂したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の主要製品で低調な出荷となりました。感染症の影響は、第2四半期以降、需要が回復傾向にあります。売上高は267億円減収の2,620億円(前年同期比9.2%減)となりました。
利益面においても、クロロブレンゴムや検査試薬など一部の主要製品において、感染症による影響がありました。一方で、球状アルミナ、高純度導電性カーボンブラックなどのxEV関連製品の出荷が好調に推移し、5G関連やデータセンター需要の世界的な拡大により電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルム、半導体封止材向け溶融シリカファイラーなどの半導体関連製品の出荷が前年を上回りました。また、新型コロナウイルス抗原迅速診断キット“クイックナビ™-COVID19Ag”の販売を8月に開始しており、業績に大きく寄与しました。
以上の結果から、営業利益は前年比べて40億円増益の280億円となりました(同16.7%増)。経常利益は273億円(同20.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は189億円(同13.1%増)と、それぞれ前年比増益となりました。
- ・ 第3四半期以降、クロロブレンゴムの需要回復が想定を上回っており、また、環境・エネルギー分野の需要も伸長しておりますが、足元での新型コロナウイルスの再拡大による見通しの不透明さもあることから、通期予想営業利益330億円を据え置くことと致しました。

3. 参考数値・前提

	2020年度 第3四半期実績	2019年度 第3四半期実績	増 減	2020年度 通期予想	2019年度 通期実績
投資	317	265	52	450	369
減価償却費	172	166	6	230	225
研究開発費	111	112	△ 1	160	150
有利子負債残高	1,400	1,268	132	1,410	1,343

	2020年度 第3四半期実績	2019年度 第3四半期実績	2020年度 通期予想	2019年度 通期実績
為替レート[円/\$]	106.1	109.1	106.1	109.1
国産ナフサ[円/k1]	29,360	42,600	30,150	42,650

4. セグメント別状況(前年同期比)

- ・ エラストマー・機能樹脂部門は、TVやモニターの導光板用途などでMS樹脂の販売が堅調に推移したものの、クロロプレングムが上期に受けた新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、減益となりました。
第4四半期は、クロロプレングムの需要回復が続くと見込んでおりますが、通期では前年比減益の見通しです。
- ・ インフラ・ソーシャルソリューション部門は、改定した価格の維持が寄与しましたが、セメントや特殊混和材、肥料、耐火物・鉄鋼用材料の販売が、感染症に加え天候不順の影響を受けたことから、前年を下回ったことなどにより、減益となりました。
第4四半期も、改定した価格の維持やコストの抑制に努め、通期で営業黒字を目指します。
- ・ 電子・先端プロダクツ部門は、5G関連やデータセンターの世界的な需要拡大で堅調な電子部品・半導体搬送用部材の高機能フィルムや半導体封止材向け溶融シリカファイバー、またxEV関連の球状アルミナ、高純度導電性カーボンブラックの販売が前年を上回り、増益となりました。
第4四半期も、xEV関連製品、半導体関連製品の好調な出荷が続くと見込まれることから、通期では前年比増益の見通しです。
- ・ 生活・環境プロダクツ部門は、感染症の影響を受けたプラスチック雨どいおよび合繊かつら用原糸“トヨカロン”、工業用テープの需要が回復基調にあるものの、販売数量は前年を下回りました。一方、テイクアウト需要の増加により、食品包材用シートおよびその加工品の販売は概ね堅調に推移し、原材料価格の下落や固定費削減が寄与したことなどにより、前年比増益となりました。
第4四半期は、原材料価格上昇が影響する恐れもありますが、通期では前年比増益の見通しです。
- ・ ライフイノベーション部門は、インフルエンザ診断キットの出荷が前年を下回りました。一方、インフルエンザワクチンは、早くから専門家や行政から予防接種が推奨されていたこともあり、昨年を上回る出荷となりました。加えて、8月に新型コロナウイルス抗原迅速診断キット“クイックナビ™ -COVID19 Ag”の販売を開始し、第3四半期の営業利益は、前年比大幅な増益となりました。
通期でも、新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの寄与などにより、増益を見込みます。

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2020年度 第3四半期実績	2019年度 第3四半期実績	増減	2020年度 通期予想	2019年度 通期実績
エラストマー・機能樹脂	売上高	864	1,121	△ 257	1,150	1,493
	営業利益	22	82	△ 59	30	109
インフラ・ソーシャルソリューション	売上高	384	413	△ 29	520	548
	営業利益	1	4	△ 2	5	3
電子・先端プロダクツ	売上高	515	499	16	700	680
	営業利益	101	85	16	130	124
生活・環境プロダクツ	売上高	256	281	△ 25	330	370
	営業利益	11	0	11	10	1
ライフイノベーション	売上高	366	287	79	460	355
	営業利益	138	63	75	150	70
その他消去差	売上高	235	285	△ 50	340	362
	営業利益	7	7	0	5	9
合計	売上高	2,620	2,887	△ 267	3,500	3,808
	営業利益	280	240	40	330	316

	売上高				
	2020年度 第3四半期実績	2019年度 第3四半期実績	増減	増減	
				販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	864	1,121	△ 257	△ 176	△ 81
インフラ・ソーシャルソリューション	384	413	△ 29	3	△ 32
電子・先端プロダクツ	515	499	16	△ 12	28
生活・環境プロダクツ	256	281	△ 25	△ 11	△ 15
ライフイノベーション	366	287	79	△ 1	80
その他	235	285	△ 50	-	△ 50
合計	2,620	2,887	△ 267	△ 197	△ 70

	営業利益					
	2020年度 第3四半期実績	2019年度 第3四半期実績	増減	増減		
				販売価格差	数量差	コスト差
エラストマー・機能樹脂	22	82	△ 59	△ 176	△ 40	157
インフラ・ソーシャルソリューション	1	4	△ 2	3	△ 10	4
電子・先端プロダクツ	101	85	16	△ 12	20	8
生活・環境プロダクツ	11	0	11	△ 11	△ 8	30
ライフイノベーション	138	63	75	△ 1	86	△ 10
その他	7	7	0	-	1	△ 1
合計	280	240	40	△ 197	50	187